

日本アイ・ビー・エム株式会社 板倉 景子



JNSA会員の皆さま、はじめまして。日本アイ・ビー・エム株式会社の板倉景子と申します。

この度は株式会社カスペルスキー越野様よりご紹介いただき、本稿を執筆させていただきます。

まず簡単に私の職歴とセキュリティへの関わりについてお話させていただきます。

社会人となり早10年が過ぎましたが、社会人人生のスタートはアプリケーション開発のSEでした。ちょうどJ-SOX法対応が盛んな頃で、内部統制文書化ツールの商品企画からアプリケーション開発、営業支援を担当し、若輩者ながら「リスクをいかに最小化するか」ということの難しさを肌身で感じる良い経験となりました。

2度の転職を経験しておりますが、1度目の転職後は金融機関のお客様を中心にITインフラ面の技術コンサルティング業務に携わっておりました。クラウド利用、ネットワーク暗号化、修正プログラム管理といったことから、直近では企業のグローバル化に伴うインフラ統合、特にID/アクセス管理基盤の統合をご支援させていただき国単位でのセキュリティへの考え方やスキルレベルの違いに試行錯誤しました。

2015年8月に現在のIBMへ転職後は、ITセキュリティという枠にとらわれず、セキュリティ全般のリスクアセスメントや経営戦略に即したセキュリティ戦略の策定、運用、インシデント対応のための組織設計といったことをしております。

最近の業務においては、技術的な仕事内容よりも経営寄りのお仕事が多いのですが、元来の新しいテクノロジー好きな性格もあり、技術力の低下をさけるべく社内のCTF (Capture The Flag:情報セキュリティの技術を競う競技) プログラムの運営支援等もさせていただいております。

JNSAの活動の中では「標準化部会内のID管理WG」、「U40部会」、「教育部会」に参加させていただいております。

「教育部会」の「情報セキュリティ教育実証WG」では、情報セキュリティの普及とスキル習得の地域格差是正を目的に岡山理科大学様向けに遠隔授業を実施しており、今年は私も講師を担当させていただきました。弊社以外にも、様々な企業のご担当者が週1回、半年にわたり持ち回りで各回の授業を担当し、情報セキュリティの基本知識について広く学習する履修2単位の講義として認定されております。

水曜日1限 (9:00～) という学生にとっては少々タフな開催時間ではありますが、出席率もよく、学生の皆さんの素朴な疑問の数々やコンテンツ作成を通して私自身にも良い学びの機会となっています。

また、受講生の方々の中から次世代のセキュリティ業界を担ってくれる人材が出てきてくれるのであれば嬉しいなと思うとともに、自分もまだまだ現役世代として精進しなければならないなと気持ちを新たにしました。

JNSAの活動の中で社外の皆さんと意見交換させていただき非常に刺激を受けております。今後も色々顔を出していければと考えておりますので皆さんどうぞよろしく願いいたします。

会員紹介（当コーナーでは、JNSA で活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。）

日本ユニシス株式会社 尾花 悦正



JNSA会員のみなさま、はじめまして。日本ユニシス株式会社の尾花 悦正（おばなよしまさ）と申します。NECソリューションイノベータ株式会社の早川さんよりご紹介を受け、自己紹介をさせていただきます。

わたしは学部時代には哲学を専攻し、就職後にプログラマ、業務SE、インフラSEなどといったさまざまな立場でシステムに関わってきました。5年ほど前に縁あって奈良先端大の山口研究室で学ぶことができ、セキュリティエンジニアとしてのキャリアをスタートしました。現在の主な職務としては、日本ユニシスグループの社内向けプライベートSOC運用と米国Unisys社製セキュリティ製品のプリセールスを担当しています。JNSAとの関わりとしては、昨年度より主に関連団体であるISOG-JのWGに参加しています。

古代ギリシャの邸宅にはアンドロンと呼ばれる寝椅子が並んだ部屋があり、そこで開催される宴席のことをシュンポシオン（シンポジウムの語源）と呼んでいたそうです。プラトンの作品「饗宴」のタイトルは、このシュンポシオンの邦訳です。ISOG-JのWG6を中心に行われている合宿では、昼間に会議室で議論を行い、夜はお酒が入ってまさにこのシュンポシオンの世界になります。昼間の議論にも大いに学ばせていただいています。酒が入った後にセキュリティの専門家同士で交わされる話もとても刺激的なものです。興味のある方はぜひ参加されると得るものがあると思います。社外に高度なサービスを提供している方の多いISOG-Jの中ではまだまだ貢献できていないという状態ですが、世の中のセキュリティ向上に貢献できるように明日からガンバろうかなと精進しています。

わたしは情報セキュリティをゲームで例えるとエンドコンテンツのようなものだと考えています。普通のゲームでは、ラスボスなどを倒すとエンディングを迎えます。しかし、エンドコンテンツなどと呼ばれるやりこみ要素が仕込まれていて、いつまでもやることが尽きないゲームもあります。セキュリティの世界では、例えばWebアプリケーションのセキュリティが理解できても、バイナリ、カーネルモード、フォレンジック、暗号などいくらでも魅力的なダンジョンが残されています。そもそもシステムを構築できる、運用できる、正常なログが読めるといったことは前提で、それに加えてセキュアなシステム・運用を構築したり、異常なログを識別したりすることが求められる世界です。（通常はチームで活動するので、ちょっと大げさですかね。。。）

セキュリティのこういったところに魅力を感じるかは人により違うと思いますが、わたしはまだまだこのエンドコンテンツで飽きずに遊んでいられるかなと思っています。

最後にプライベートに関して少しだけ。最近は図像学（イコノグラフィ）や図像解釈学（イコノロジー）などに関心があり、休日は美術館などに行くこともあります。イコノロジーもセキュリティと同様に、歴史、宗教、思想、神話などについての広範囲な知識が必要とされる奥が深いものです。関連する領域に関心があれば、知識がたがっていくことが感じられるのでオススメです。